



昭和8年第二次東成区域図



明治18年の測量図 (大日本帝国陸地測量部発行)

東成区の今昔

平野川 (百済川) と猫間川 (高麗川)

古代から中世の間、百済郡が置かれその中央を蛇行し流れていたのが古名「百済川」「高麗川」で渡来文化の窓口の舞台として発展してきました。

近世の平野川は、河内の柏原と大坂の八軒家間の輸送水路として柏原舟の往来が盛んで、玉津橋は玉造の津 (港) として繁栄を極めました。

大正12年から改修で、蛇行していた平野川は無くなり、少し東側に今の平野川が付け替えられています。旧平野川に架かっていた「亀の橋」の碑を残すのみです。

猫間川は、今は埋め立てられ道路になっています。高麗川がなまって「ねこまがわ」に変わっていると伝えられています。今は、東小橋北公園に「ねこまがわ」の碑を見るのみです。

千間川と緑橋・深江橋

千間川 (千間堀川) は、江戸時代東大阪市高井田辺りを水源とし、平野川に合流していた約1.8kmの長さで川幅7mの区の北端を東西に一直線に開削された堀川で、当時は農村地帯であったところから、河内方面の農作物などを小舟に乗せて上下していました。当時、しばしば洪水被害があったため、昭和49年6月に埋め立てられています。

この川の長さがおおよそ千間あるところから千間堀川と呼ばれ、生活道路とつながる橋梁が24橋架かっている、現在地下鉄駅名として「緑橋」「深江橋」にその名が受け継がれています。

たまつくりくもんしろうり 玉造黒門越瓜

豊臣時代、大坂城玉造門のあったところを黒門町 (門が黒塗りであった) といい、近くを流れていた猫間川に架かっていた橋が黒門橋と言われていました。この黒門橋付近が黒門越瓜の発祥地と考えられています。天保7 (1836) 年の「名物名産略記」にも記載があり、当時の今里・片江・深江辺りでも栽培されていました。

粕漬けにしておいしかったことから名産になりました。

いまざと 今里ロータリー

今里交差点は、ロータリーが無くなって半世紀に近い今日になっても今里ロータリーと呼ぶ人が多い。

ロータリーは、昭和3年に設立された今里片江土地区画整理組合の事業のなかでの幹線道路事業として、都市計画街路が一点に集中し交差点を造ったのに始まります。昭和9年にロータリーは完成しています。当時は、信号も無く車は円を描くように流れていましたが、昭和30年に信号がつけられロータリーは無くなりました。今は、東成区を象徴する名称になっています。

ロータリーから西に300m程のところにある「セルロイド会館」は、平成13年に国の登録文化財に登録されています。

くすのき たいじゅ 楠の大樹

大今里1丁目17番にある八王子神社御旅所内に繁茂する楠は、樹齢およそ1300年を数える大樹で、府下でも最も古い楠と思われます。この地域は、旧西今里村の氏神であった、八剣神社の跡地で、通称「楠さん」として区民に親しまれています。

明治18年6月、折からの長雨で増水していた淀川の堤防が決壊し、大阪方面は空前の大洪水となり、当時の西今里村の村民40数名が、この楠の大樹に登り、かろうじて難をのがれたと伝えられています。



かめはし 亀の橋



たまつくりくもんしろうり 玉造黒門越瓜



くすのき たいじゅ 楠の大樹